

2025年

1月

南風

ふれあい南伊豆ホスピタル

第257号

● 当院では、患者様が地域で安心して暮らしていただける為の支援をすすめています ●

編集・発行 医療法人社団 辰五会 ふれあい南伊豆ホスピタル 〒415-0151 賀茂郡南伊豆町青市 848 TEL 0558-62-1461 FAX 0558-62-0510



院長

望月 博



あけましておめでとうございます。去年は自分も新型コロナウイルスに初めて罹患し、後遺症でしばらく咳が続きました。感染症対策は面会制限の問題などにも関わるため、医療機関では依然として重要な問題です。

年々、自分が年を取っていくことを実感するようになっていきます。昨年には「医師の働き方改革」が始まりましたが、当院ではちょうど同時期に新任の医師が赴任し、業務の負担が軽減されて大変助かっております。

今年は、昨年打者としての魅力を発揮してくれた大谷翔平選手が投手としての活躍が見られることが楽しみです。今年もよろしくお祈りします。



事務部長

山本 善治



皆さま、あけましておめでとうございます。2025年、皆さまにとって良い年であることをお祈り申し上げます。

少子高齢化が急激に進み、病院を取り巻く環境は大きく変わろうとしています。また、国が進めている地域医療構想の導入により、地域医療のあり方が今まで以上に問われるようになってきました。地域に生き残れる病院であるためには、自院の地域での存在意義、そして、地域が自院に求めているニーズを考え行動しなければなりません。2025年問題を見据え、地域に生き残っていくためには、心理的安全性の高い組織をつくることです。心理的安全性は、「こんな発言をしたら馬鹿にされる」「こんなことを言うと怒られる」という不安がない状態です。心理的安全性が高いとトップの方針を踏まえて一人ひとりが主体的に発言・失敗を恐れず新たな挑戦ができる環境が整い、強い組織となります。

① 人間関係の改善 ② 自身のスキルや能力を積極的に生かす ③ 仕事へのやりがい
地域に貢献しつづける組織を目指し、全員主役で取り組んでいきます。



看護責任者

大門 吉之



新年あけましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、健やかな新春をお迎えのこと心からお慶び申し上げます。

一昨年より新型コロナウイルスの感染症法上の扱いが2類相当から5類へ変更となったことにより、マスクの着用や生活上の制約も減りましたが、病院内では引き続きマスクの着用をお願いしております。患者様の感染予防の観点から、面会時間や場所の制約もお願いしている状況にあり、ご家族様には引き続きご迷惑をおかけいたします。

地域の皆様に今後より良い精神科看護を毎日提供できる病院として職員一同頑張っており、取り組んで参りたいと思います。今後どうぞ宜しくお願い致します。

院内バザー を開催しました♪

11月に2日間かけて院内バザーが行われました。対象は入院中の患者様、デイケア利用者様、地域生活支援センターふれあいを利用している皆様です。作業療法室の職員がバザー担当者の指示のもと、日々の業務の合間をぬって準備を行いました。衣類や日用品などは主に病院職員やデイケア利用者様から寄付をしていただきました。

また、バザーの会場では、作業療法の創作活動で入院患者様が作った装飾品が花を添えていました。

前回開催のバザーに続けて、2日間ともデイケア利用者様が就労支援の一環で受付や会計、商品の案内係として参加してくださいました。大きな声で挨拶をして呼び込みをする方や、丁寧に衣類を畳んでお客様に手渡しされる方など自分たちにできる事を最大限行っている様子を見ることができました。

今回の参加がデイケア利用者様にとって少しでも地域で生活し、社会参加していくための自信に繋がればいいと思います。

入院患者様からは「品ぞろえが豊富で選ぶのがとても楽しかった」、「掘り出し物を見つけられて良かった」などの声が聞かれました。バザー終了後に嬉しそうな笑顔で購入した衣類を着用して見せてくれたのがとても印象的でした。

今回の開催にあたりご協力いただいた関係者の皆様、デイケアの皆様がこの場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。



本年もよろしくお願いいたします

ふれあい南伊豆ホスピタル
☎0558-62-1461



2025年1月発行 Vol.257

【監修】山本 善治

【構成・編集】柴崎 貴弘

【デザイン】F&Y

【作業協力】支援センターふれあい

利用者の皆さん

ふれあい南伊豆ホスピタル

広報委員会